

実践事例



「書く」ことにつまずく子ども

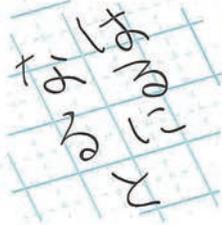
もくじ

どうして?「書く」ことにつまずく子ども	70・71ページ
ひらがなが書けない	72～75ページ
カタカナを覚えて書けない	76・77ページ
ひらがなやカタカナが書けない	78・79ページ
筆圧が安定しない(弱い/強い)	80・81ページ
文字の形が整わない・マス目からはみ出してしまう	82～85ページ
正しい書き順を覚えられない	86・87ページ
漢字を覚えて書けない	88～93ページ
漢字の字形が整わない	94・95ページ
漢字の送り仮名が覚えられない	96・97ページ
見て書くことが難しい	98～101ページ
聞いて書くことが難しい	102・103ページ
作文が書けない	104～107ページ
句読点が抜ける	108～111ページ
コラム 保護者や通常の学級の担任とうまく連携するために	112ページ
ふろく5 いれかえてみよう!	113ページ
ふろく6 ことばなぞなぞ	114ページ
ふろく7 ことばを見つけよう!	115ページ
ふろく8 きょうはなにを書く?	116ページ

どうして？
?

「書く」ことに つまづく子ども

こんなことに
困っている！



マス目や行から
文字がはみだす

適切な大きさやバランスで
書けない

筆圧が弱い(強い)

不器用だったり、鉛筆をきちんと操
作できずに筆圧が安定しない



見たり、聞いたり
しながら書けない

話を聞いたり、黒板を見たりしながら書けない

校 → 姪
話 → 詰

文字の向きが
逆になる

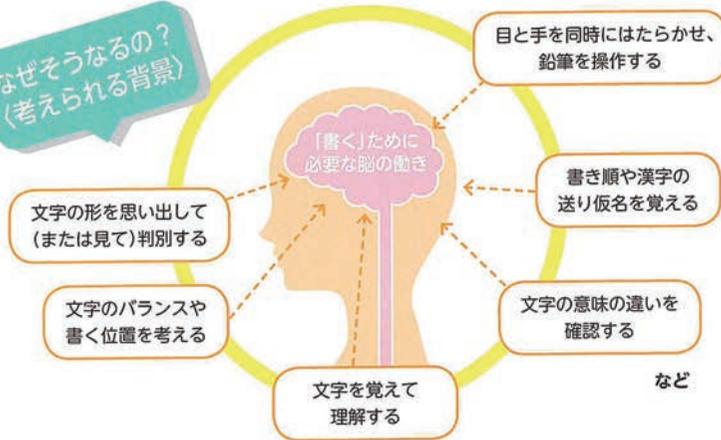
文字の向きが逆になったり、
形の似ていたりする文字を
混同する

check

こんなようすもみられます

- 文字が正しく書けない
- 漢字を覚えて書けない
- 文字の形が整わない
- 書き順が覚えられない
- 送り仮名が覚えられない
- 単語をまとまりで覚えて書けない
- 作文が書けない
- 句読点が抜ける

なぜそうなるの？
(考えられる背景)



書くことにつまづくのは…

情報処理や認知の過程に不具合があり、手と目の
動きを協調させるといったことがスムーズにできない

文字を読めるのに、ひらがなやカタカナを左右逆向き(鏡文字)に書いたり、漢字をきちんと覚えたりできない、文字がマスや行から大ききはみだしてしまうなど、「書く」ことにつまづいてしまう子どもがいます。

特別な支援が必要な子どもの場合、取り組む態度の悪さや、練習や努力不足がその理由ではない場合があります。

周囲の大人がそれを理解し、適切にサ

ポートすることが必要です。

その際、単に反復練習をさせるのではなく、「書く」ことの、どの段階でつまづいているのかを探りながら、文字の形や成り立ちを認識しやすくなる工夫をする、ゲーム感覚で楽しく文字を書く機会を増やす、さまざまな補助具を活用するなど、子どもが書くことを諦めないようなサポートが必要です。

ひらがなが書けない① 覚えて書けない

つまずきの
ようす



△ 形の似ている文字の区別がつかず、覚えられない(「あ・お」「く・へ」「ね・ぬ」など)

こんな
支援を!



➡ ○ 書き順に合わせた歌を作って覚える

指導事例

「ひらがな歌」で覚える

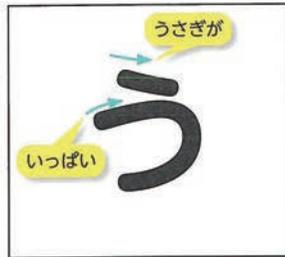
- 1 ひらがなを行ごと(あ〜わ行)に分けて、それぞれの文字で「ひらがな歌」をつくる。
- 2 ひらがな歌を歌いながら文字を書いていく。

あ行の「ひらがな歌」

文字とリズムを合わせて歌にする

あ	あいさつ げんきに がんばろう
い	いちごは うまい
う	うさぎが いっぱい
え	え じょうずに かけたね
お	おにぎり いっぱいたべたい ね

歌いながら文字を書いていく



留意点

- 歌の歌詞は、児童の知っていることばを使用するようにし、あ行・か行・さ行というように、行ごとに分けて練習していくようにする。
- 聞いたことをすぐ忘れてしまう児童は、長い文を覚えることが苦手なため、「ひらがな歌」の歌詞とともに歌にあった絵を提示すると、より覚えやすくなる。

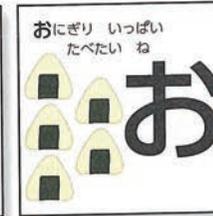
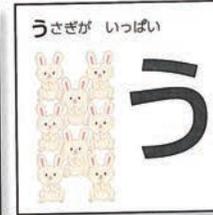
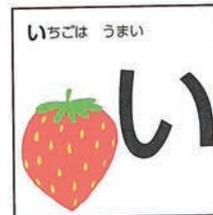
支援教材

ひらがなかるた



ひらがな歌

文字と内容に
合った絵を入
れる



特長

歌で文字を想起させ、覚えていく活動。聴覚記憶が弱く「ひらがな歌」が覚えられない子どもには、歌の内容をイメージしやすいように絵を加えた「ひらがなかるた」を提示しながら練習すると文字を覚えやすくなり、より定着しやすくなる。

使い方

- 「ひらがな歌」の歌詞と、内容に合った絵を描いた「ひらがなかるた」を作成する。
- 子どもはこのかるたの絵を見ながら、「ひらがな歌」を歌い、文字を書く練習をくり返す。

このような場面で

- ▶ 個別指導の学習場面で

point

- 「ひらがなかるた」の提示や歌は、それらがなくてもひらがなを思い出せるように徐々に減らしながら練習していく。
- 「ひらがな歌」は、子どもと相談して作ると意欲的に取り組み定着しやすくなる。
- 文字を書くときは、書くことに対する抵抗を減らす(すぐ消せる、すらすら書けるようにするなど)ため、ホワイトボードを活用するとよい。

ひらがなが書けない② 手指の動きがぎこちない

つまずきの
ようす



▲ 板書の書き写しや筆算などをする場面で、書字が安定しない

こんな
支援を!



▶▶ ○ 手先を使う遊びを体験する

指導事例

トランプやゲームで手指を鍛える

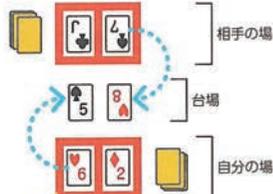
活動の準備や片づけまでを子どもに行わせ、手指を使う体験を増やしていく。

遊び方：スピード

- 2人で向かい合って座る。
- ジョーカーを除き、トランプを黒と赤に分けてからシャッフルし、どちらかを持つ。
- 自分の場に、手札を2枚表向きに並べて置き、残りは裏にしたまま持つ。
- かけ声の合図とともに、自分の手札の一番上のカードの表を上にして2人同時に台場に置く。
- 台場の2枚の札の上に(自分と相手どちらが出したカードの上でもよい)、自分の場にある2枚の札から、番号続きになるカードを出していき、自分の手札がなくなるまで続ける。

番号続きの例：数字は番号が隣り合わせならば、
上がっても下がってもよい

- 2-3-4-3 ● Q-K-Q など



- 子どもがカードを片づける。

先生は、手札を置く場を子どもがわかりやすいようにテープで区切る

留意点

- 子どもの不器用さやルールの理解度に応じて、特別ルールを設けるなどレベルの調整を行う。
- 活動の切り替えが苦手な子どもには、キッチンタイマーやタイムタイマー(次ページ)を併用し、時間の見通しを提示するようにする。

支援教材①

バイスクル ライダー バック(トランプ)

U.S.プレイング・カード社/
株式会社マツイ・ゲーミング・マシン
<http://www.matsui-gaming.co.jp/bicycle/products/01.html>

特長

独自に開発された素材で作られているため、滑りやすく耐久性もあり、子どもでもシャッフルや配布の際に扱いやすい。



タイムタイマー

時計盤に色がついており、残り時間が一目でわかる。音に敏感な子どもの妨げにならないように、時間になると小さなアラーム音で終了を知らせる。



株式会社
ケイ・ツー・エムブランネット
I-WANT(アイウォント)
<http://iwant.shop-pro.jp/>

支援教材②

スーパーサッカースタジアム(サッカーゲーム)

サッカー日本代表チームモデル クロスファイアストライカー
株式会社エポック社 http://epoch.jp/ty/soccer/sss_wcs/

特長

ゲームの準備段階からさまざまな操作が必要のため、手指を動かす練習につながられる。

使い方

- 選手の人形やゴールポストをつけるなど、子どもにゲームの準備(組み立て)と片づけをさせる。
- 時間制限やルールを確認して遊ぶ。



このような場面で

▶ 通級指導教室での個別指導や余暇時間に

「対人関係やルール理解が苦手」「過度に勝ち負けにこだわる」「数操作が弱い」といった子どもへのグループ指導や、先生対子どものダブルスなどで行ってもよい。

point

- 楽しく遊べたことをほめて成功体験を増やし、次の活動への意欲につながるようにする。

書く 3

カタカナを覚えて書けない

つまずきのようす



- △ プリントやノートにカタカナを書く場面(カタカナ既習後)文字の形や傾きの左右が逆になる
- △ 形の似ている文字を間違える

こんな支援を!



書き方(注意ポイント)を声に出しながら、指で大きくなぞって覚える

指導事例

声に出しながらなぞって覚える

1 子どもが間違いやすいカタカナ、混同しやすいカタカナを調べる。

傾きや方向が逆になる

- 「ミ」の傾きが逆 ● 「コ」「ヨ」の方向が逆 ● 「ナ」「ノ」の方向が逆 など

混同する

- 「ク」「ウ」「ワ」の混同 ● 「シ」「ツ」の混同 ● 「ソ」「ン」の混同 ● 「カ」「ヤ」の混同 など

2 書き方(注意するポイント)を声に出しながら、「カタカナ書き方シート」の大きな文字を指でくり返しなぞる。

3 次に鉛筆を持ち、ノートなどと同じように声に出しながら書いていく。



右に下がる



左右の位置関係に困難を示す場合も多い。左右いずれかの手首に、リストバンドなど目印になる物を付けて、「左」「右」を明確にして取り組むようにする。

留意点

- 見て書くだけでは形の違いや傾き、方向などを記憶しにくい子どもに対しては、ことばに出させたり、耳から聞かせたりして情報を補うようにする。
- 「左」「右」などの指示に応じて、鉛筆や旗を動かすトレーニングなどもあわせて行うと効果的である。

支援教材

カタカナ書き方シート

特長

「声に出す(聴覚)」「指を動かす(運動)」「なぞる(触覚)」のように、多くの感覚に同時に働きかけ、より記憶に残りやすくする学習。一文字だけ取り上げたり、混同しやすい文字とセットで練習したりできる。

注意するポイントを赤字で記入する



使い方

- 模造紙やA3コピー用紙などで大きな正方形を作る。
- カタカナを黒の太字、書き方(注意するポイント)を赤字で記入しておく。
- 声に出しながら大きな文字を指でなぞり学習する。

このような場面で

- ▶ 通級指導教室での個別指導で

point

- 大きく腕全体を動かす運動から、細かく指先で鉛筆を動かす運動へと進める。
- 子どもと相談しながら、口ずさみやすいことばで書き方(注意するポイント)を示してもよい。

ひらがなやカタカナが書けない

つまずきのようす



- △ ひらがなやカタカナが想起できず、語彙が少ない
- △ 文意を読み取ることが難しい

こんな支援を!



○ 類推文から文字を想起する

指導事例

類推文を読ませ答えを一緒に考える

- 1 解答のはじめの文字が、五十音別に統一された、類推文の問題プリントを用意する。
- 2 こどもは問題に取り組む。取り組むなかで、解答がわからずヒントが欲しい場合は先生に伝える。
- 3 先生は、解答を直接書き込むか、子どもに文字を教えて書かせる。

問題の例

① そらから おちてくる なみだは なあに?

あ め

② じめんに トンネルを ほる ちいさな むしは なあに?

あ り

③ せっけんを つかうと ぶくぶくでてくるもの なあに?

あ わ



留意点

- 子どもが文字を想起できないときは書いてあげたり、五十音表(25ページ参照)で示したりするなど、あまり苦しませないように想起の手がかりを与えるようにする。

支援教材

なぞなぞあいうえお

特長

意味の推測が必要な文を読み取りながら、類推力、読解力、語彙力を身につけていく学習。語頭の音が五十音で統一されており、想起の手がかりとなっている。また、語頭の文字をくり返し確認し、文字の定着をめざす活動。

いつ使用する?

- ▶ 通級指導教室での個別指導で
- ▶ 家庭学習で

なぞなぞ あいうえお

① ゆびの さきにあって

つ め

子どもがヒントをもらいたい場所を指定し、先生は直接書き込んだり、横に書いて子どもに書かせたりする。五十音で示してもよい

② がっこうで つかう

いす と なかよし の もの なあに?

つ く え

③ みずの なかに いとを たらして すること なあに?

つ り

④ よる そらに ぼっかり うかぶ もの なあに?

つ き

⑤ ほそい いっぱんあしで たっている とりは

つ

ら り る れ ろ

「らりるれろ」のどれかを入れると答えになるよ」というようにヒント自体が音韻操作になるように指導するのも効果的

なぞなぞ あいうえお

① ゆでると こしをまげて あかくなるもの なあに?

え ひ

② くらいとこでみる おはなし なあに?

え い が

③ せが たかくて あたまの てっぺんから けむりを だすもの なあに?

え

④ えを かくときに しぼって つかうもの なあに?

え の く

⑤ わらうと ほっぺに できる かわいいもの なあに?

え く ぼ



子どもの状況により、絵を描いて示してもよい

point

- 解答がわからなくてもすぐに教えるのではなく、子どもが「できた!」という喜びを味わえるようにヒントを与えるなど工夫をしていく。

書く 5

筆圧が安定しない(弱い/強い)

つまずきの
ようす

△ 字を書くときの筆圧が弱く(強く)、文字をきちんと書けない

こんな
支援を!

○ 筆記用具を工夫する

指導事例

筆圧に合わせた筆記具を選ぶ

筆圧が弱いとき

手先(とくに親指と人差し指の2本)に力が入りにくかったり、適切な力の配分ができなかったりすると筆圧が弱くなりやすい。

握りやすく、少しの力でもしっかりと字が書ける、濃い鉛筆を選ぶ

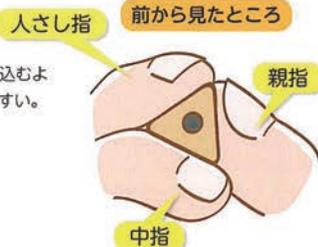
筆圧が安定しない子どもの場合、軸が三角形になっている鉛筆が書きやすい場合が多い



筆圧が強いとき

鉛筆の持ち方が正しくなかったり、前屈みで字をのぞき込むようにしているなど、姿勢に問題があると筆圧が強くなりやすい。

姿勢に配慮し、親指と人差し指、中指の3本で持ちやすい鉛筆を選ぶ



留意点

鉛筆の持ち方だけでなく、字を上からのぞき込んで書いているときなどは、正しい姿勢についての支援をする。

支援教材

ippo! 低学年用かきかたえんぴつ[三角] Yo-i もちかたえんぴつ[三角]

株式会社トンボ鉛筆

http://www.tombow.com/products_type/bringup/#product_type

特長

ippo! 低学年用

かきかたえんぴつ[三角]

- 1辺が広い三角軸になっており、持ちやすくしっかり握れるため、鉛筆の持ちはじめやうまく鉛筆を操作できない子どもに適している。
- 通常の鉛筆より15mm短く、子どもの小さな手でも操作しやすい。



通常の長さの鉛筆

低学年用鉛筆

161mm 15mm

Yo-i もちかたえんぴつ[三角]

- 鉛筆に書かれているなみ狀のラインに指を合わせると、鉛筆が正しく持て、持ち方の練習ができるようになっている。
- ラインは左利きでも対応できるようになっている。



このような場面で

▶ 通常の学級の書字の場面で



point

- 鉛筆は、さまざまなメーカーから豊富に販売されているので、保護者や子どもに鉛筆の種類や適している物などの情報を提供し、家庭でも子どもが使いやすい物を選ぶようにするとよい。

文字の形が整わない・マス目からはみ出してしまう①

つまずきの
ようす



△ものをみる力(視空間把握)が弱かったり、注意がそれやすかったりするため、きちんと手元を意識して書けない

こんな
支援を!



▶▶▶ ○書いている感覚を感じとる練習をする

指導事例

感覚を感じとれる工夫

さまざまな質感の材料を活用して、「感覚」を意識できるように工夫する。休み時間なども利用し、手に伝わる感覚から、手元を意識できるような体験を増やしていくのもよい。

チョークを使う



地面にチョークで絵や線を描く

指や棒を使う



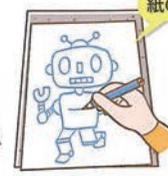
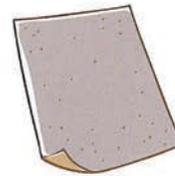
砂に指や棒を使って文字を書く

留意点

- 書いているときに、ペン先から感覚を感じ取れているかを確認する。必要に応じて、「ガタガタするね」などことばをかけたり、書くスピードを変えさせたりする。
- 書いているものに注目できているか、そのつど確認しながら行う。

支援教材①

紙やすり



紙の下に敷く

使い方

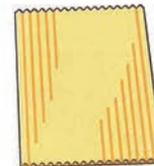
- 紙やすり(サンドペーパー)を紙の下に敷き、塗り絵や絵を描く(180番ほどの粗さがよい)。

このような場面で

- ▶通常の学級での学習場面で

支援教材②

段ボール紙



手に感覚が
伝わりやすい

使い方

- 凸凹した段ボール紙に、直接クレヨンなどで絵を描いたり、紙の下に敷いたりする。

このような場面で

- ▶通級指導教室での個別指導で

支援教材③

レインボーペーパーシート

レインボーペーパーシート 株式会社大創産業
<http://www.daiso-sangyo.co.jp/company/index.php>



使い方

- レインボーペーパーシートに、直接絵や線を描く。カラフルな色が、描いている物への注目を引き出しやすい。

このような場面で

- ▶通級指導教室での個別指導で

代替案

紙にクレヨンを塗り重ね、一番上を黒で塗りつぶして作成し、わりばしやペン状の棒などで描いてもよいでしょう。



文字の形が整わない・マス目からはみ出してしまう②

つまずきの
ようす



△ ノートやプリントに文字を書くとき、
手先が不器用でマス目をはみ出す

こんな
支援を!



- 指先を細かく動かす練習をする
- 枠を意識する練習をする

指導事例

手元を意識する練習

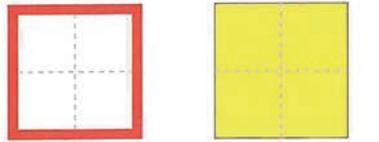
指先を細かく動かす練習

- 手の小指側の側面を紙につけ、手をその位置から動かさないようにしながら、指先だけ動く範囲の大きさの円やギザギザ線を描く。
- 小さく縮小した塗り絵を塗る。



枠を意識する練習

- 色で強調したマス目や枠、太くした枠、マス目のなかに色をつけた用紙などに文字を書いたり、厚紙でフレームをつくり、そのなかに文字や線を書いたりする。



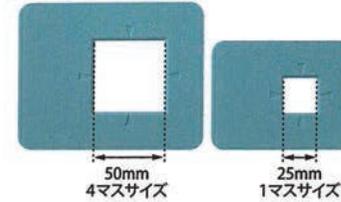
留意点

- 書くときに腕が動いたり、手首に力が入りすぎたりするときは、大きな動きから小さな動きへと、段階を追って練習するとよい。
- 枠のなかに線を塗りつぶさせたり、枠をなぞって書かせたりして大きさを感じさせるのもよい。

支援教材

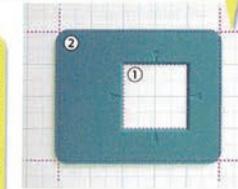
Qフレーム

株式会社ゴムQ
http://gomuq.exblog.jp/14/



市販の25mmマスノートに内側のマスを含めると、外周に掘られた溝にノートのマス目が合うようになっている

横幅を持たせているため、字を書くときに押さえやすい。左利きの場合は、反転すると使用できる



特長

市販の国語8マスノートのマス目の大きさが正方形の穴がくり抜かれており、書き取りや、マス目に合わせ文字を書くことが苦手な子どもに対し「マス目に文字を収める」「文字のバランスをとる」「消しゴムで消す」など、さまざまな練習に対応できる教材。

- 正方形のフレームのフチに鉛筆があたり、文字をマス目からはみ出さずに書くことができる。
- シリコンゴム製のため滑りにくく、フレームの印をマス目に合わせると、子どもでも簡単に使用できる。
- 消しゴムで文字を消すときに、ほかの文字まで消してしまうのを防げる。

このような場面で

▶ 通常の学級での学習場面で



マス目やノートを厚紙に貼り、マス目部分をくり抜いて作成してもよいでしょう。

point

- マス目のなかに書く文字の量や難易度、マス目の大きさなどは、子どものレベルに合わせて変えるとよい。
- マス目のなかに書く練習だけではなく、年賀状やメッセージカードづくりなどとおして、きれいに書いたことで「相手に伝わった」という経験や喜びを感じられるようにすると定着につながりやすい。

書く 8

正しい書き順を覚えられない

つまずきのようす



- △ 正しい書き順で覚えられない
- △ 文字を順序立てて記憶することが苦手(継次処理の弱さがある)

こんな支援を!



書く手順を思い出しやすいように、**絵描き歌方式で覚える**

指導事例

絵描き歌方式で書き順を覚える

活動のウォーミングアップとして、腕を大きく動かして漢字を空書する「漢字体操」を行う。空書は、視覚刺激として残らないため、画数が少ない漢数字や部首、「+」「川」「口」「木」といった1年生漢字を扱う。



- 学習する漢字の書き順に従って「絵描き歌(歌詞)」を考える。
- 先生が、自由に節をつけて絵描き歌を唱えながら、漢字を黒板(またはホワイトボード)に書いて見せる。
- 子どもは、先生と歌詞を唱えながら漢字を何度か書いて練習する。
- 子どもがひとりで唱えながら漢字を書く。思い出せないときは、「書き順シート」(次ページ)を参照する。

絵描き歌の例

たて棒に	➡	日
+		
カギ棒つけて	➡	日
+		
ニッと笑って	➡	日
+		
日曜日!	➡	日

留意点

- ウォーミングアップの漢字体操(上図)で、運動記憶として「横棒は左から右にひく」「漢字の構成要素も左から右に書く」などのルールを定着させる。

使い方

- 書き順シートは学習漢字すべてを用意するのではなく、子どもが苦手とする漢字で作成する。
- 一面を構成する要素は、子どもと相談し名前をつける(「日」の二画目を「カギ棒」とするなど)。
- 歌詞は一面ずつではなくても、子どもが習得しているまとまりであれば、まとめて表現する(「百」では「日」をまとまりとして扱うなど)。

このような場面で

- ▶ 新出漢字の学習や作文などで
- ▶ 家庭学習で

絵を加えると、より想起しやすくなる

日

学習する漢字

書き順に分けて歌詞をつくる

たて棒に	日
カギ棒つけて	日
ニッと笑って	日
日曜日!	日

公

それぞれの書き順がわかるように示す

ハ	公
ム 食べよう	公
公園で	公

百



一(いち)	百
ノ(の)	百
日は	百
百円!	百

point

- 絵描き歌の歌詞は、先生があらかじめ考えておくだけでなく、印象に残りやすくするために子どもと話しながら決めてもよい。
- 当該学年の漢字に取り組む前に、部首や構成要素になることので多い「1年生漢字」の書き順を習得しておくことで学習を広げやすい。
- 厚紙で作成してリングで綴じ、覚えた漢字をリングから外すようにすれば参照しやすくなり、徐々に量が少なくなることで学習が進んでいると実感しやすくなる。

書く 9

漢字を覚えて書けない①

つまずきのようす



- △ 漢字を正確に思い出して書けない
- △ 書いている途中で、違う字になってしまう

こんな支援を!



○ 漢字の要素や組み立てを言語化して覚える

指導事例

漢字を言語化して覚える

- 1 先生が、画要素や組み立てを言語化させる。
- 2 書き順に沿って漢字の画要素を言い、子どもはそれを反復しながら書く練習をしていく。

例

①ソの ②王様
③の(ノ) ④目

ソの 王様 の(ノ) 目の 前に着く

例

①かさをかぶった ②王様

かさをかぶった 王様 が「全員集合」と言った

留意点

- 漢字を画要素に分けることが難しい場合は、あらかじめ「画要素かるた」(次ページ)で分け方を練習する。
- 視覚認知や視覚記憶に苦しさがあるが、音声記憶は良好である(聞いたことを覚えるのは得意)子どもに有効。

支援教材

かく画要素かるた

ヒントカード

漢字カード

漢字カードの裏に読み仮名を振っておくと効果的

いとへん(糸)
色

絶

ぜつ
た(える)

ごんべん(言)
正午の午

許

きょ
ゆる(す)

きへん(木)
じゅう(十)
また(又)

枝

し
えだ

特長

一つの漢字を画要素に分けて覚える学習。

使い方

- カードを2枚用意し、1枚には漢字と読み仮名を、もう1枚には漢字の要素をヒントとして記入する(扱う漢字は国語学習単元から抜粋する)。
- 漢字カードに対し、ヒントカードを読み上げたり、見せたりして画要素の構成に合う漢字をえらばせる。

このような場面で

▶ 個別指導やグループ指導で

アレンジ例：指導開始時や指導する間近にゲーム感覚で行ってもよい

- (1)かるた形式 先生がヒントカードの画要素を読み、子どもはそれを聞いて漢字カードを取る。
- (2)神経衰弱 カードを机に裏返して並べ、漢字カードとヒントカードが合えばカードをもらえる。



point

- あらかじめ漢字の画要素について学習をしておくと、子どもが自分自身で漢字の成り立ちを言語化できるようになる。
- 子どもと一緒に画要素の名前を考えてもよい。

漢字を覚えて書けない②

つまずきの
ようす



- △ 正しい書き順で覚えられない
- △ 視覚認知の弱さがあり漢字を覚えられない

こんな
支援を!



○ カードを操作しながら文字の構成を学ぶ

指導事例

部分に着目し全体の構成を覚える

手本をよく見て書き写すという方法では習得が難しい場合、以下のよ
うな方法で意味づけを行いながら学習するとよい。

部分(パーツ)に着目して文字全体の構成を考える

- 1 先生が、ノートやノートサイズのホワイトボードに学習する文字を書き、子どもに文字をいくつかのまとりに分けさせる(いくつに分けるかは提示する)。子どもは赤いマーカーで、まとりを丸く囲む。
- 2 並行して部首の学習を行い、形と一緒に意味も覚える。漢字が一文字記された「漢字カード」(次ページ)で、同じ部首を含む漢字を複数集めて共通点を確認する(「さんずい」は「水」に関する漢字など)。
- 3 文字を構成する部分(部首など)に切り分けられた「漢字パズル」(次ページ)を行いながら、漢字を構成する部分(まとり)を意識する。
- 4 文字の構成がイメージできるようになったらノートに書いて練習する。

15_漢字分解プリント.pdf



まとりを囲む

手順を言語化して意味づけしながら覚える

- ▶ 86ページ「8. 正しい書き順を覚えられない」参照

留意点

- 導入では文字をいきなり書かせるのではなく、部品となっている文字の構成要素の抽出からはじめる。
- 該当する部分を丸で囲ませるなど、できるだけ筆記の負担が少ない方法で行うとよい。

支援教材① 漢字カード(部首)

16_漢字カード.pdf

部首の部分だけ着色したものを用意してもよい



文字の構成を捉えやすいように、8センチ角以上の大きさにするとよい

特長

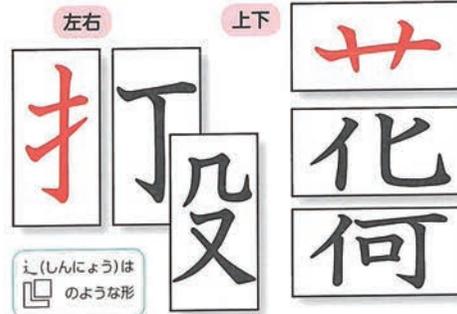
書字に苦しさがある子どもは、書くことに苦手意識を持ちやすいため、筆記用具ではなく、カードを操作して苦手意識を軽減させる。

使い方

● 同じ部首の漢字を見つけさせ、漢字の共通点を一緒に確認するなどし、文字の構成をイメージさせる。

支援教材② 漢字パズル(部首)

17_漢字パズル.pdf



使い方

● 提示された漢字カードを見ながら、漢字パズルで組み合わせを探す。

このような場面で

- ▶ 通常の学級の新出漢字の学習場面で
- ▶ 通級指導教室での個別指導でマンツーマンや小集団で苦手な課題の補習を行うときに。
- ▶ 家庭学習で

point

● 忘れやすい漢字は、その文字の漢字カードをリングなどで綴じて携帯し、手軽に参照できるようにしておくともよい。

漢字を覚えて書けない③

つまずきのようす



△ 漢字学習のときなどに、読み方は同じだが、異なる意味を表す漢字を書いてしまう

こんな支援を!

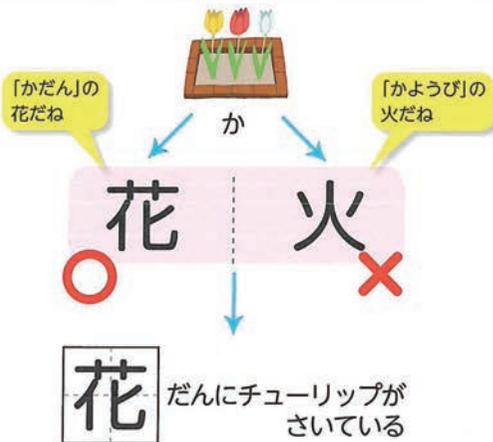


○ 意味の違いを確認しながら書き分けられるプリントで学習する

指導事例

漢字の意味を意識する

- 1 先生は、同じ読み方だが、意味の異なる漢字を含んだ文章のプリントを用意する。
- 2 子どもは、先生と一緒に意味の違いを確認しながら、正しい漢字を選択する。
- 3 正しい漢字を選んだら、プリントの枠に記入していき、文章を完成させる。



留意点

■ 同じ音の漢字と書き間違える場合には、漢字の三要素(音・形・意味)の「意味」の部分が正しく覚えられていないと考えられる。このような誤りの多い子どもには、絵と漢字を対応させて漢字の「意味」を意識できるようにする。

特長

正しい漢字を選択肢の中から選べるようにし、漢字に苦手意識のある子どもでも学習に取り組みやすくする。

このような場面で

▶ 一斉活動や個別指導で

〈正しいのはどちらかな? 正しい漢字をえらんで書こう!〉

1. 海で がらをひろう

(貝・開)

2. あしたはいよいよ だ

それぞれの漢字が正しいか、絵を見ながら選んでいく

3. 書室で本を読む

(開・戸)

4. 土から花の が出る

(芽・印)

5. 日 日に旅行に行く

(明・照)

6. だんにチューリップがさいている

(花・火)

7. ぼくのお兄さんは 校生だ

(高・小)

8. こん をつかまえる

(中・虫)



〈正しいのはどちらかな? 正しい漢字をえらんで書こう!〉

1. 海で がらをひろう
2. あしたはいよいよ だ
3. 書室で本を読む
4. 土から花の が出る
5. 日 日に旅行に行く
6. だんにチューリップがさいている
7. ぼくのお兄さんは 校生だ
8. こん をつかまえる

選んだ漢字を枠に書いて練習する

point

- 間違えやすい字を子どもの定着度に合わせてピックアップし、課題を作成していくとよい。
- 学習した漢字を使って短文を作るようにすると、文脈のなかでどの漢字を使うのかをより具体的に理解しやすくなる。
- 意味の違いを確認し、それぞれを使い分ける学習をすることで、パソコンで文章を打ったり、携帯電話でメールを打ったりする際にも正しく変換できるようになる。

漢字の字形が整わない

つまずきの
ようす



▲ 筆記をするとき、マス目や行におさまるように書けない

こんな
支援を!



○ モデルを見ながらバランスを把握する

指導事例 字形をイメージできるよう補助する

1 文字全体に対する部首のバランスがわかる「字形バランスカード」を子どもに見せながら、ポイントを口頭で伝える。

例 「うかんむり」は中身がちゃんと入るように、上のほうに平たく書いて横幅をとろうね」など

- 「字形バランスカード」を見ながら、マス目が書かれた用紙に、部首をバランスよく書けるように練習する。
- バランスよく書けるようになったら、その部首が含まれる漢字をいくつか選び、部首以外の部分を先生がフェルトペンで書き、子どもに部首部分を書き足させる。
- 文字全体のバランスが整ってきたら、マス目や罫線のほかに灰色の補助線が入った「字形バランスワークシート」を使って、ノートや作文を書く練習をする。



留意点

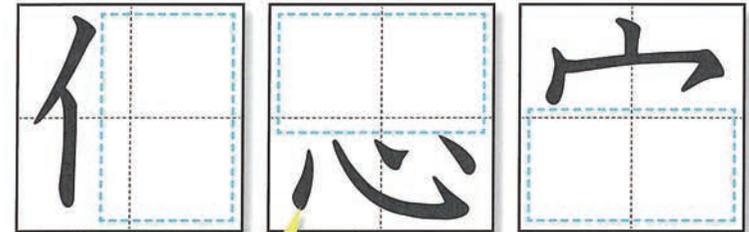
- 字形が整わない背景には、手先の不器用さの問題などがある。文字を書くことに劣等感をもったり、意欲が削がれたりすることにつながるため、整った文字を書くことばかりを求めすぎずに、「字形バランスカード」の枠も、あくまで目安のためはみ出してもよいことを伝える。
- あくまでも、子どもが書きやすくなるようなサポートを行うという視点で練習する。

支援教材① 字形バランスカード

19_字形バランスカード.pdf

特長

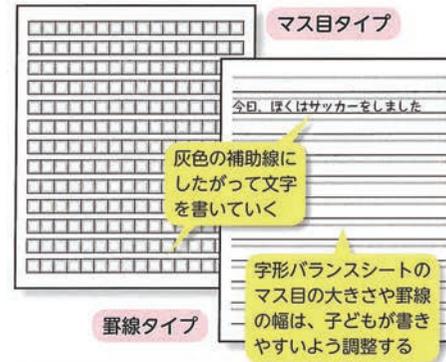
部首をマス目の外枠ぎりぎりに大きく記し、文字全体から見た位置づけや配分がイメージできるようにする学習。雑でいいいさがない、学習意欲がなく勉強が不得意、空間認知の弱さや手先の不器用さがあるといった子どもに対しても活用できる。



マス目の外枠ぎりぎりに大きく記す

支援教材② 字形バランスワークシート

20_字形バランスワークシート.pdf



使い方

● マス目(罫線)の内側に灰色の補助線を加え、子どもはその補助線いっぱいまで文字を書く。

このような場面で

- ▶ 通常の学級や通級指導教室での学習場面で
- ▶ 家庭学習で

point

● 字形バランスワークシートを複数枚綴じて、ノートやメモ帳として日常的に活用するのも一つの方法である。

漢字の送り仮名が覚えられない

つまづきのようす



△ 作文などの課題で漢字を文章中で使用するとき正しい送り仮名を書けない(音韻意識や視覚記憶の弱さがある)

こんな支援を



○ 読む、書く、声に出すといったさまざまな活動をとおして定着を図る

指導事例

「送り仮名学習シート」で学習する

- 1 「送り仮名学習シート」に、学習する漢字を書かせる。
- 2 記入した漢字の送り仮名をとまなう読みを教え、いくつかのことばを子どもに考えさせる。

例 遊ぶ 遊ばない 遊ぼう 遊べ など

- 3 漢字の読み仮名を、漢字の右脇のマス目に色ペンで書かせる。
- 4 考えたことばの送り仮名部分を「送り仮名学習シート」の下部のマス目に鉛筆(黒)で記入させる。
- 5 「送り仮名学習シート」の赤線部分を山折にして下部を見えないようにし、漢字部分の読みを強調するようにシートを見ながら子どもと何度も音読する。

例 「あそ、あそ、あそ…ぶ! あそ、あそ、あそ…ばない!」

- 送り仮名の1文字目が共通する漢字については、とくに漢字部分の読みを強調して覚えさせるようにする。

例 楽しい 「たの、たの、たの…しい! たの、たの、たの…しくない!」

送り仮名を書かせた際、共通するひらがなに色づけしてもよい



支援教材

送り仮名学習シート

21_送り仮名学習シート.pdf



読み仮名を色ペンで書かせる

考えた送り仮名を書かせる



1文字目が共通するときは色づけするなど強調して覚えさせる

使い方

- 学習する漢字と読み仮名を書かせる。
- 考えた送り仮名を、鉛筆で記入させる。
- 赤線部分を山折にして下部が見えないようにし、くり返し音読練習をする。



折ってくり返し提示して練習する

- 送り仮名の1文字目が共通するときは、色づけをするなど強調して覚えさせる。

このような場面で

- ▶ 通常の学級の新出漢字の学習場面で
- ▶ 通級指導教室での個別指導でマンツーマンで苦手の学習の指導を受けるような機会に行う。
- ▶ 家庭学習で

point

- 先生と子どもで、同時に声をそろえて漢字部分を唱え、3回目に思い思いの送り仮名を言い、「同じことばを言えたら1得点」といったゲーム形式にしてもよい。クラス全体で楽しい雰囲気で行ったり、授業以外の時間に行ってもよい。

見て書くことが難しい① 単語をまとまりで覚えて書けない

つまづきの
ようす

- ▲ 板書を写すのに時間がかかる
- ▲ 単語のまとまりをイメージできず、一文字一文字思い起こすなど、単語を覚えておくことが苦手

こんな
支援を

○ 絵カードを使い単語をまとまりで意識させる

指導事例

カードを使い視写する練習

絵カードを使い単語ごとにまとめて書くための意識づけを行う。

- 1 先生が短文を提示する。
- 2 その下に単語のまとまりを意識できるよう、絵カードを提示する。
- 3 子どもはそれをもとに、文章をまとまりで書くよう練習する。

活動になれてきたら、写すべきことばをラインマーカーなどで単語ごとに強調し、その部分をまとまりとして意識できるような指導へ進めていく。



黒板に
短文を書く

そのとき、カエルが
ケロケロど、なきながら
ピョンど、とびました

マーカーで
単語ごとに強調する

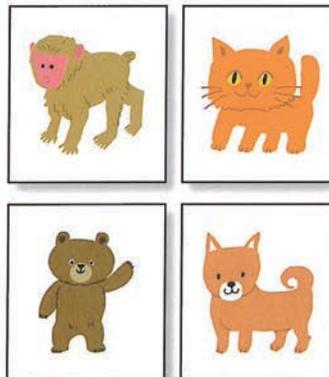
留意点

- まとまりを意識させることが重要なので、正しく書くことには重点を置かない(少々の誤りは許容する)。
- 文字想起の弱い子どもにとっては、課題そのものが適さない場合もある。

支援教材

名詞・動詞単語絵カード

名詞カード



動詞カード

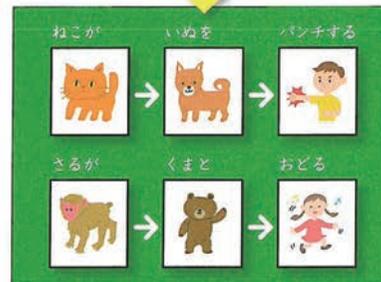


使い方

- 短文を単語のまとまりに分けたカードを作成する。
- 子どもの状況にあわせて、手元において視写するか、または板書を写させて使用する。
- 子どもの好きなキャラクターを使ったり、4コマ漫画などでコマごとに切り取ったものを作成しても有効である。

短文に合わせて作成したカードを組み合わせて提示する

動作を表す絵カード



苦手意識の強い子どもには、まず手元においては始めるのがよい



このような場面で

▶ 通級指導教室での個別指導で

point

- まとまりを意識できたときは、本人が実感を持てるよう認めていく。
- 国語などの教科書の文章を使い、この活動を予習として取り組みと、通常の学級でのスムーズな学習につなげることができる。

見て書くことが難しい② 黒板のどこを見るのかわからない

つまづきの
ようす



- △ 授業中、板書を写したり、連絡帳を書いたりすることが難しい
- △ 落ち着きがなく、黒板などに集中できない

こんな
支援を！



わかりやすい板書の工夫をしたり、
書く量を減らしたりする

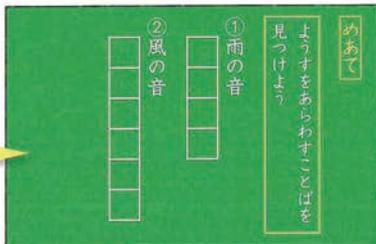
指導事例

書きやすくなる工夫をする

板書の工夫をする

- 1 板書をわかりやすくする。
- 2 板書内容を子どものノート形式で書いて置き、手元に見本として置く。

- 板書の量は少なめにする
- 行間をあける
- ことばや文章は短く、簡潔に
- 写す部分を色チョークで囲むなど



書く量を減らす

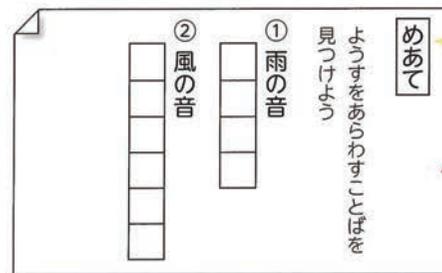
- 1 板書内容を記入したワークシートを用意し、穴埋め式で書かせる。
- 2 プリントや友だちのノートをコピーし、ノートに貼ってもよいことにする。

留意点

- 子どもによっては黒板が見えやすい位置が違うため、席はなるべく前にするか、状況によって子どもと相談しながら決める。
- 声に出して読みながら、文章を書くほうが書きやすい子どももいる。板書するべきところを音読させてから書かせると、迷わず書きはじめられる場合もあるので配慮する。

支援教材①

穴埋め式ワークシート



板書する内容をプリントしたワークシートに穴埋めで記入していく



そのままノートに貼ってもよいようにする

支援教材②

穴埋め式連絡帳

		月	日	曜
あらかじめ、必要な項目を同じパターンで記入しておく				
連	持	計	漢	音
		算	字	読
				れ
				ん
				ら
				く

子どもは必要な部分
だけ記入する

特長

- あらかじめ、項目が記入されたフォームを使わせることで、必要箇所だけの記入ですむ。
- 書き写す内容を同じパターンで提示すると、注意しやすくなる。

このような場面で

- ▶ 連絡帳を書くときに
- ▶ 通常の学級での一斉指導で

point

- 乱雑な字でも、まずは書いたことを認める。
- 授業の流れをなるべく同じパターンにし、書く活動が授業のどこに入るのか見通しがもてるようになると注意が向きやすくなる。
- 連絡帳への記入では、書き写す内容を同じパターンで提示する。
- 穴埋め式のオリジナル連絡帳を準備し、書く量を減らしてあげると意欲が持続しやすくなる。

聞いて書くことが難しい

つまずきの
ようす



- △ 「りょこう」を「よこう」、「うどん」を「んどん」などと書き間違える
- △ 単語のなかの1音1音を聞き分けられず書き間違える

こんな
支援を！



○ 音を聞き分ける練習をする

指導事例

音で区切って聞き分ける練習

step1

- 先生が、「りょこう」「どりょく」など、「りよ(拗音)」が入った単語を区切りながらスピーチホースを使い、ゆっくり発音する。
- 子どもはスピーチホースを耳にあて、区切りの何番目に「りよ」があるか聞き、並んでいるカップの「りよ」の場所におはじきを入れる。



step2

- 「りよ・りよ」と同じに聞こえた場合
→ 「同じ」と書いたカップにおはじきを入れる。
- 「りよ・わ」「よ・りよ」など違って聞こえた場合
→ 違うと書いたカップにおはじきを入れる。



step3

- 「りよかん・りよかん」「よかん・りよかん」など間違う音の入った単語について、同じか違うか聞き分けを行う。

step4

- 「りょこう」「りよかん」などの単語をゆっくり発音して聞かせ、文字を書かせる。「う」と「ん」など、ほかの文字についても、同じ手順で進めていく。

支援教材①

スピーチホース

ホースを用意し、両側に「ろうと」をつける



使い方

- 音の聞き分けが難しい子どもに対し、先生がスピーチホースを口に当てて発音し、子どもは反対側を耳に当てて聞くことで、一つ一つの音が聞き取りやすくなる。

このような場面で

- ▶ 通級指導教室での個別指導で

支援教材②

聞き分けシート

使い方

- 単語を音で分け、その音の数だけ聞き分けシートを用意する。

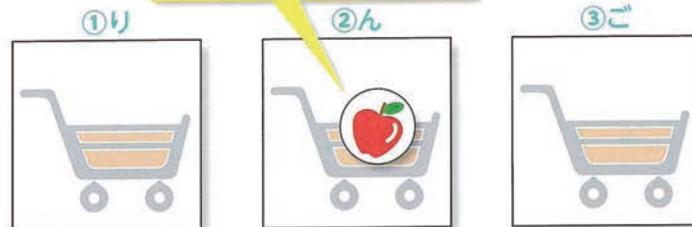
例 「りんご」ならば、「り」「ん」「ご」と3文字分
→ 3枚のカードを用意する

- 「ん」の聞き分けならば、先生が「ん」と言ったと感じた場所のシートにシールを貼る。



子どもの興味に合わせて、虫の名前なら虫カゴの聞き分けシートを用意するなど、シートやシールを変えるとよい。

先生が「ん」といった場所にシールを貼る



point

- 左ページの指導事例では、それぞれの段階で時間が必要になるため、カップやおはじきを絵やシールに変えたり、空き缶に磁石をつけたりするなどし、意欲を継続して取り組めるよう工夫する。

作文が書けない①

つまずきの
ようす



作文や日記を書くときに、内容を順序立てたり、
事実をうまくとらえたりすることができない

こんな
支援を!

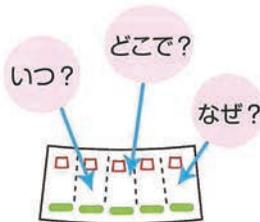


○子どもと話しながら場面を整理する

指導事例

「作文メモ」で場面を整理する

- 1 子どもが体験したことなどを先生に話す。
- 2 話した内容を「いつ」「どこで」「だれが」「なぜ」「なんのため」の項目に分けて、作文メモシートに書き込んでいく。
- 3 順番を考えて、項目に分けた場面に番号を振る。
- 4 先生と子どもで、はじまりと終わりの文章についてどのような内容にするかを一緒に考える。
- 5 子どもは作文用紙に、はじまりの文章から書く。そのとき、次の場面の項目を見ながら、必要な接続詞などについても先生と一緒に考えながら進めていく。
- 6 終わりの文章まで書き終えたら、最初から最後まで声に出して読む。
- 7 先生は、作文が書けたことをほめて次回への自信につなげる。



留意点

■ 子どもによっては、話した内容以外の文章(接続詞やはじまり、終わりの文章など)を先生が書き、子どもはそれを見ながら書くという対応も必要。

使い方

- 話した内容を「いつ」「どこで」「だれが」「なぜ」「なんのため」の項目に分けて書き込む。
- いくつかの内容を書く場合は、上の項目をさらに5項目に分けて書いていく。
- メモから文章にする際に、会話や感じたことが書かれているときは、子どもにかきかっこ(「」)の使い方や、どの部分で書くのかなどを確認してから書かせる。
- 場面の順番を決め、作文を書く手がかりにする。

話しながら項目に分けて書き込む

なんのため	なぜ	だれが	どこで	いつ
校外学習 	虫と植物の かんさつ 	わたしと 3年1組の みんな 	なにが あるのかな? 	6月30日
<input type="checkbox"/> ばん				

メモは、絵で描いても文字で書いてもよいことにする

このような場面で

順番を考えて番号を振る

▶ 通常の学級での一斉指導や家庭学習で

point

- 学校行事を題材にする場合、しおりや写真などがあれば、見ながら話すイメージを持たせやすい。

作文が書けない②

つまずきの
ようす



- ▲ 日記や作文などでテーマを決められなかったり、何を書いたらよいかわからなかったりする
- ▲ 書くことに抵抗感があり、書きはじめても続かない

こんな
支援を!



○ 話している内容を「書く」につなげる

指導事例

「フセン作文メモ」で場面を整理する

- 1 子どもが作文にしたい「テーマ」について先生と「おしゃべり」をする。先生は、書くときに必要な内容が網羅されるよう、意図的にやりとりをする。

例 「いつ」「だれと」「どこで」「なにを」「どのように」「どんなようす」「なぜ」「なんていったの」「どうおもったの」 など

- 2 先生は、子どもが話す内容をフセン紙にメモしていく。メモする内容は、子どものレベルに合わせて決める。

- 文章でメモをするか(写せばよい状態)
- 単語だけでメモをするか(キーワード)

- 3 時間軸に沿ってフセン紙を並べ替える。
- 4 フセン紙メモを見ながら作文を書いていく。



文章になっているほうが書くときの負担が少ないので、苦手意識が強い子どもには文章でのメモがよい

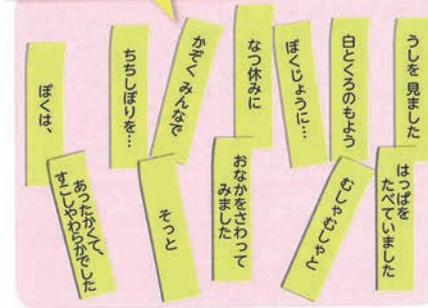
留意点

- 書けなくても、話したいことならあるという子どもは多い。書く前に話して事柄を想起させることが大切である。
- 「おしゃべり」が進まなかったり、事柄を思い出せなかったりする子どももいるが、その場合は関連する絵や写真、体験を思い出す手がかりとなる物などがあるとよい。

支援教材

フセン作文メモ

おしゃべりの内容をフセンに書く



並べ替え



時間軸にそって
並べていく

このような場面で

- ▶ 作文を書くときに
 - ▶ スピーチ原稿を作るときに
 - ▶ 家庭で日記を書くときに
- メモは保護者が作成する。

特長

テーマについての意図的なやり取りで、文章にしたい場面を整理していく活動。フセン紙で作成すると、順番を考えるとときに何度も貼り替えられる。

● 子どもと体験を共有できるときは、「五感」を働かせて記憶するような具体的なことばがけ(問いかけ・代弁)が大切。

- 「何を食べているのかな?」
- 「たくさん食べているね、むしゃむしゃ食べているね」
- 「そっとさわってみようか」
- 「どんな感じ?」「あったかいね」「やわらかいね」 など

point

- はじめは先生や親がメモをしながら会話を進め、徐々に自分でメモが作れるように支援していく。
- 話したい(伝えたい)ことがあれば作文は書けることを経験させ、自信をつけさせていく。

句読点が抜ける①

つまずきの
ようす



- △ 作文や記録を取っている場面で、文章の区切りで句点をつけるというルールがわからない
- △ 相手意識を持って文章を書くことが苦手

こんな
支援を!



文章の区切りごとに
句点を入れるルールを教える

指導事例

句点の必要性を感じさせる

- 1 句点のない文章のプリントを用意して先生が音読し、子どもは文章の区切りに印をつける。
- 2 次に、子ども自身が音読し、①と同様に自分で文章の区切りに印をつける(区切りがないと読みにくいということを実感させる)。
- 3 再度音読させ、句点の位置(①の区切り)で「マル」と声に出させる。
- 4 ①②をある程度くり返し行ったあと、句点を意識させながら文章を書かせる。

区切りがない
と読みにくい
ということを実感させる



句点の位置
で「マル」と
声に出して
言わせる



留意点

- 読み書きの困難さがあり、読むことや書くことに抵抗感が強い子どもには、適さない指導なので注意する。
- 活動のなかで、自分が書いた文章を読む相手が読みやすいかどうかを意識させることが重要。

支援教材

句点のない文章

特長

読みにくさを解消するために、句点が重要であると気づかせ、書いたときには、それを読む相手を意識して書くことの重要性に気づかせる活動。

使い方

- 教科書など、学年相当の文章から句読点を抜いて、プリントにして提示する。
- 音読し(または子どもに音読させ)、句点の位置に印をつけさせる。

句点をすべて除いた文章でプリント作成する

葉は
で
買
い
に
来
た
ん
だ
な
と
思
い
ま
し
た

ろ
を
く
れ
と
言
い
う
の
で
す
こ
れ
は
き
つ
と
こ
の

し
た
き
つ
ね
の
手
で
す
き
つ
ね
の
手
が
手
ぶ
く

す
る
と
ぼ
う
し
屋
さ
ん
は
お
や
お
や
と
思
い
ま

出典：新美南吉「手袋を買いに」

葉は
で
買
い
に
来
た
ん
だ
な
と
思
い
ま
し
た

ろ
を
く
れ
と
言
い
う
の
で
す
こ
れ
は
き
つ
と
こ
の

し
た
き
つ
ね
の
手
で
す
き
つ
ね
の
手
が
手
ぶ
く

す
る
と
ぼ
う
し
屋
さ
ん
は
お
や
お
や
と
思
い
ま

子どもは句点の部分に印をつける

point

- 句点で練習したあとで、読点についても同様に指導するのが望ましい。

このような場面で

▶ 通級指導教室での個別指導で

保護者や通常の学級の担任と うまく連携するために

支援方針を一貫させる

子どもたちへの個別場面での指導において、保護者や通常学級の担任との連携はとても大切です。それは、子どもが生活するすべての場所で、支援の方針が一貫している必要があるからです。

もちろん、指導のしかた、接し方はそれぞれの場で違うこともあるでしょう。しかし、方針が変わってはいけません。方針が変わると、子どもが混乱してしまいます。

同じ方針で子どもと向き合うために、どのような工夫が必要でしょうか。それにはまず、保護者や学級担任が子どもについて、どのように見ているか、何に困っているかをよく聞くことが大切です。個別に話を聞く機会を持ってよいですし、三者と一緒に話す機会を持ってよいでしょう。話しやすい環境で、一定の時間を確保して聞きましょう。

また、保護者や学級担任からの話を聞いたうえで、子どもの指導目標の共有が重要です。「足し算のくり上がりが覚えられない」としたら、「足し算のくり上がりがどの程度できるようにしたいか」について話し合いを持ちましょう。100%完璧にできることは難しいかもしれませ

ん。ですので、80%程度を目標にするとしたら、それぞれの場(個別指導の場、通常の学級、家庭)ではどんな指導をすればよいかを考えます。

家庭では、そのほかの生活もあるわけですから、保護者の負担にならない程度に配慮する必要があるでしょう。通常の学級でも、できることとできないことがありますので、何に配慮するかを検討し、内容を絞っておく必要があります。

それぞれの思いを共有する

このような話し合いを十分にできることが大切だと考えますが、言い換えれば、このような状況こそ「うまく連携している」といえるのではないのでしょうか。連携できているということは、情報が十分共有でき、それぞれの場でできることを話し合っていること、そして目標に向けてそれぞれにできる支援をしていこうと思えることだと考えます。

まずは、お互いの思いを話し合い、そして子どもは何かできて、何ができないかを共有することに取り組んでみてください。それぞれの立場で、子どもの成長を願っている、その思いを共有することが連携のスタートです。

もし文字をいれかえてことばをみつけましょう。

どうぶつ

ぐらも → まもうし →

やさい・くだもの

もんれ → いはくさ → こんいだ → にじん →

たべもの

そきばや → やたきこ → めやだきま → けとほっきー →

のりもの

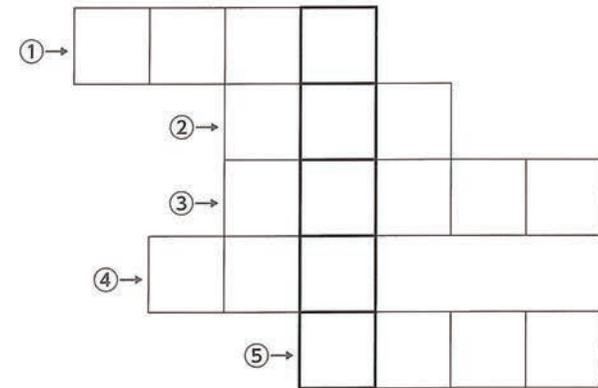
てちかつ → うこきひ → しゃてんじ → んかしせんん → うしゃぼうしょ → たすつーとこじえー → 

ぶんよこたえをかんがえてみましょう。

1. 「うし」のさいしょに「ぼ」をつけると? うし
2. 「ぼう」のさいしょに「てつ」をつけると? ぼう
3. 「パン」のさいごに「だ」をつけると? パン
4. 「おか」のまんなかに「な」がはいると? おか
5. 「ちず」のまんなかに「ながいぼう」がはいると? チズ
6. 「まち」のまんなかに「ちいさいつ」がはいると? マチ
7. 「すすめ」のまんなかに「てんてん」をつけると? すめ
8. 「こばん」のはじめのじを「か」にかえると? ばん
9. 「こたえ」のさいごのじを「つ」にかえると? こた
10. 「きつつき」の「きつ」を「もち」にかえると? つき
11. 「イギリス」の「イ」を「キリ」にかえると? ギリス
12. 「フランスパン」の「ンス」を「イ」にかえると? フラパン
13. 「スペード」のどれかを「ピ」にかえると? ー
14. 「ろけつ」のどれかを「ぼ」にかえると? ッ
15. 「こばん」の「てんてん」をべつのにつけかえると? ん

もんだいこたえ問題に答えてことばをみつけましょう。

ヒント ひるまに、ひととあったら?



- ① くつをいれておく ところです。
- ② せなかに のせてもらう ことをいいます。
- ③ タッチを されないように にげる あそびです。
- ④ いろいろちからはいってここから できます。
- ⑤ てを たたいて おとを だすことです。

こたえ

